

發行所 福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
印刷所 常盤毎日新聞社
印刷人 川崎文治

常盤新報

定額 郵金貳錢 廣(五號十二) 休(日曜大祭) 福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
一ヶ月廿錢 廣告(五號十二) 休(日曜大祭) 印刷所 本社專屬 陽社
郵税 五厘 料(五號十二) 休(日曜大祭) 印刷所 本社專屬 陽社

九月二十日夕刊

常盤文藝

私の川柳

ノートから
新島 新坊

△女房は味淋で相手する氣なり
△木道節棟梁飲けぬ酒に酔ひ
△調味劑薬の名か子思ひ
△安普請枯木の燃えるやうに焼け
△若い母子の氣短かを持餘し
△氣短かに馴れて女房物言はず
△漫書祭子供に返へる面白さ
△母親の謎を娘はどうに知り
△日曜は漫書版から目を通し
△呼出しの文に女の瞳が浮び
△金のなる木でもあるよな話なり
△誘惑もされずオールドミスとなり

電話 御披露
開設 電話 御披露

御注文品は
多少に拘らず
電話 二七五番
を御利用の上
御下命を乞ふ
平町二丁目横町
鮮魚商 大堀商店

渡邊藥局

平町三丁目
渡邊政五郎
(郵便局向)

洋食は
向上軒
平町三丁目
電話五二三番

工務方 藥品調劑
染料藥品
藥品調劑

和久井漆器店

平町一丁目
電話 四〇五番

漆器 漆器 漆器

石材商會

南町火見下
電話 呼出二六七番
鈴木 彌米

大々勉強仕
命ノホト願マヌ
迅速ニ配達致シマス
(コンクリート用)
砂利及砂
中山岩採掘販賣
此レニ附随スル
土工請負業

一筆啓上

東京より
新妻 次郎

大坂電車従業員のストライキ後大分そちこちにストライキがある様だ、東京の電車もどかく面白からぬ噂が立つて市民は御心配の模様だった。市電の車掌さんも運轉手さんもけつして電車を運轉せぬ様な事はない、市民には御迷惑をかけぬとの話は何處からか湧き出でてやつと安心した、自腹を切つても他人に迷惑をさせぬ江戸つ子の昔の氣風が何

建築材料

磐城セメント 樽入 袋入
板 ガラス 各種
壁用 材料 各種
ペンキ 塗料 各種

セメント、板方
ラス安價になり
ました、
御照會を乞ふ

西村屋藥舖
平町二丁目電話三番

高倉萬年筆製造所

何人も是非御試を乞ふ
平町三丁目

東京 瓦斯
壹俵二付 壹圓卅錢
壹噸二付 三十三圓

佐藤鐵工所
平町月見町
電話(三六三)

久野製菓販賣部

福島縣平町一丁目
電話 一五〇番
工場 平町長橋町六十一番地

大評判... 大歡迎...
天馬空を行く如き賣行
最高級「サツク」萬年筆

寄書

近來俗歌が盛んだが東京では籠の鳥もストン節もすたつて此れと云ふてない様だ、横濱は籠の鳥が大流行ヤット口をきく様な子供までも「ハゲタアタマ」になご、唄つてる

香水や化粧品は不景氣とは云い、やはり舶來物が好まれる、時節柄困つた事だ

東京の各家庭で猿を飼ふ事が流行した、一匹十圓から二十五圓位中には商店より有効で經濟だ

大谷保太郎商店

平町南町(電話三四四番)

外交員數名募集

丸登株式店
川添房二郎

株式買中値

電話に金融致し

銘柄	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	五〇〇	四〇〇
磐城實新	三〇〇	二七〇
田村實銀	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七五
農工銀行	二〇〇	二四〇
同 新	一五〇	一八〇
百七銀行	五〇〇	五五〇
同 新	一一五	一六〇
七七銀行	一一五	九八
郡山電氣	五〇〇	三七五
同 新	二五〇	一七五
只見川電	一一五	一七〇
植田水電	一一五	一五五
好間水電	一一五	一三〇
磐城建物	一一五	一五〇
磐城製菓	二〇〇	四〇〇
平信託	五〇〇	二五〇
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二六〇
平製氷	二五〇	二〇〇
好間軌道	五〇〇	三〇〇
入山新	三二五	一七〇
小田炭礦	二五〇	一五〇
磐城炭礦	五〇〇	四一〇
同 新	二二五	一八〇
磐城セメン	五〇〇	六四五
同 新	三三五	四三五
平運送	一一五	八〇

